

「がんばろう、なとり」

東日本大震災 名取市支援活動報告

2011.4.12

4月11日の朝6時、田岡市長や図書館職員などに見送りをいただき名取市に向け、避難所で子どもたちに読んであげるための本や紙芝居など、また、名取市図書館の散乱した本の整理に必要なものを積んだワゴン車で、石狩市民図書館を出発しました。

函館からはフェリーで青森に、そして東北自動車道で約400キロを走行して、名取市図書館に到着したのは午後9時17分。そこでは夜分にもかかわらず、菅井名取市図書館長が待っていてくれました。

移動にほぼ1日を要したため、実際の活動の初日は12日となりました。

「雪がちらつく寒い朝、

しかし、元気に朝9時に佐々木名取市長などを訪問」

田岡市長から預かったメッセージを渡しました。

それに対し、佐々木名取市長から心からの感謝の言葉をいただきました。

また、図書館や本そのものが持つ魅力や大切さについて熱く語られました。

さらに、お忙しい中を被害の状況について詳しく説明をいただきましたが、子どもたちが受けた心の傷については、取り分け心配されている様子でした。



被害について説明する佐々木市長



丸山教育長

その後、丸山教育長にもお会いしましたが、市長同様に支援に対する感謝の言葉をいただきました。別れ際に、「皆さんのお帰りの時期には、桜が咲いているかもしれません」とおっしゃった言葉が何とも印象的でした。

「事前に写真では見ていたけれど・・・」

名取市図書館の地震による被害の状況は、ホームページなどで拝見し、およそのイメージをもって訪問しましたが、現実を目の当たりにすると、改めて今回の災害の大きさを思い知らされました。

図書館は水(津波)の被害はありませんでしたが、地震の揺れで壁にヒビが入り、書架は倒れ、本が散乱していました。どこから、どのように整理をしてよいのか……。しばし、立ち尽くしてしまいました。

図書館や離れの倉庫の様子



図書館全景（外目は被害が無さそうだが・・・）



2階書庫

1階入り口付近の資料を整理し、
かろうじて通路を確保している



離れの倉庫（手前と奥の2か所）



2階新聞収蔵棚からは全て落下

トイレの壁も崩れ落ちている



離れの倉庫内は足の踏み場もない

**「支援活動の打ち合わせ、
武田教育委員長、大橋ハマボウフウの会会長も駆けつけてくれました」**

図書館の状況を把握後、散乱した資料整理の準備について、また、13日に石狩市を出発する支援物資の受け入れなどについて、今週のスケジュールを確認しました。

途中、武田教育委員長が私どもの活動に感動し、是非お会いしたいと予定されていたようで、「こんな大変な時期だからこそ、今、図書館が元気を出して市民のために役立ってほしい」と、激励と感謝のお話をいただきました。

また、石狩市と名取ハマボウフウの会は、10年来のお付き合い。大橋会長も石狩市からの訪問の情報を聞き、いらっしゃったとのこと。

ご自宅は津波で流され被害を受けましたが、自然保護活動への情熱は未だ熱く、前向きのご様子で、途中、有田石狩市環境室長とも電話で近況を報告しました。



右から武田教育委員長、菅井館長

「避難所2か所、ラジオ体操、読み聞かせ、紙芝居」



名取二中のラジオ体操

翌日から予定している避難所での読み聞かせ等の下見（情報収集）に、2か所の避難所を訪問しました。

「名取二中」では、思ってもいなかった「ラジオ体操パフォーマンス」を壇上ですることになりました。このことで、避難している方との距離が縮まりました。



市文化会館での読み聞かせ

その後、「市文化会館」へ移動。名取市図書館の配慮もあり、急ぎょ遊んでいた子どもたちに声をかけ、紙芝居、絵本、ピクブックを読み聞かせすることができました。

子どもたちから「明日も来てね～」と言われ、思わず、こちらの方が元気をもらいました。「明日も必ず来よう！」と心の中で誓いました。

編集後記

本日予定した活動終了後、甚大な被害を受けた閑上（ゆりあげ）地区を視察しました。

海岸線に近づくと景色が一変し、目の前に車、船、家が・・・、思わずテレビの映像、写真ではないか、との錯覚に陥りました。

